

不起立の記——二〇三年春

大阪が危機にみまわれている
民意の乱用がはじまっている
戦後民主主義が
戦後教育が殺されてゆく
日本が戦前に退行しはじめる

わたしは不起立することにした
日の丸・君が代は
支配の道具であってはならない
しかし権力が乱用する

不当な支配で強制する
個人の心に踏み入ってくる

怖ろしいことがはじまっている
繰り返してはならない皇国主義が
また繰り返されようとしている
不埒な愛国心が天皇を利用する
火遊びする子どもたちのように

わたしは不起立することにした
不埒な命令によって
教師が公務員が座れない
かつて悪法も法だと言って
抗いの死を選んだ哲人がいた
悪法は悪法だとわたしは

抗いの生を選ぶサラムで在りたい
保護者であるわたしならば
式場で難なく座れるはずだ
座れるなら座れ
おかしいとおもうなら座れ

そしてこの春
わたしは不起立することにした
息子の小学校入学式
日の丸・君が代を前にして
たった一人だけの不起立
君が代四〇秒間の不起立
あつけないまでの不起立
こんなあつけないまでの不起立で
教師が公務員がクビになる

個人の心が殺されてゆく

こんな狂った儀式の強制から
民意は目ざめなければ
だからこれからも
わたしは不起立することにした
不寛容な権力者と従属者に抗って

在日詩集
詩碑

2016年12月26日 第1刷発行

丁章 (チョン・チャン)

1968年、京都市にて出生。在日3世

現在、東大阪在住

〈著書〉

詩集『民族と人間とサラム』(新幹社 1998年)
詩集『マウムソリ——心の声』(新幹社 2001年)
詩集『闊歩する在日』(新幹社 2004年)
散文集『サラムの在りか』(新幹社 2009年)
その他共著多数